

BL6B を使用した感想

名古屋大学大学院 環境学研究科
師橋賢太郎

先日私の研究しているタンパク質の結晶が出来上がり BL6B でデータを集めました。実験は休日で、いつもは理学電気の三浦さんにやって頂いているコントローラの切り替えを自分でやらなければいけませんでした。正直あまり自信は無かったのですが、何とか前もって聞いておいたとおりに操作したところ、何事も無くコントローラは切り替えることができました。そして、結晶をマウントしデータを測定し Crystal Clear で処理したところとても良い結果が得られました。

いくつか気になった点がありましたので、書いておきます。まず、データの測定スピードが BL6C に比べて格段に遅いということです。私の場合1枚0.5度(60秒間露光)づつ180度のデータを取りました。その結果全体でかかった時間は約19時間です。これだと1コマのビームタイムに全データを取ることができません。次に Crystal Clear でデータ処理する際に感じたことなのですが、測定データを処理するたびに rotation vector と scan rotation vector を変更しなければいけないのは面倒で、時々変更せずに処理してしまったりしたのでデフォルトのままでも正常に処理できるようにしたら、更に使い勝手が良くなると思います。それと、私がデータ測定を行っている時に運悪くビームダンプがありました。そのとき私は実験ホールを離れており、測定終了予定時間に BL6C を訪れるまで気がつきませんでした。幸い終了直前まではデータが取れていたことと、次に BL6B を使われる方に時間を少し譲っていただいたということもあり、データが取れなかった部分を取り直すことが出来ました。実験の都合上ビームタイムをすべて使い切る予定でこられる方も思うので、ビームダンプなど何かトラブルが起こった時に何らかの方法で知ることが出来るような手段があればいいと思います。

今後も何度か高エネ研にデータを取りに行くことがあると思いますので、私を見かけたら、どうぞやさしく声をかけてみてください。声をかけたからといって何もいいことはありませんが、結晶をすくえなくて泣きそうになっている人間を助けることはできると思います。よろしくお願いします。